

第 105 号  
平成 29 年  
12 月

HPに 創刊号から  
連載中

## もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意  
深く徐々に試して下さい。

山田整骨院  
熊本市中央区出水 4-25-1  
096-364-7611  
<http://yamadasu.com/>  
視力回復  
<http://facebook.com/mejikara>  
妊娠力推進 不妊解決  
<http://facebook.com/sizennjyutai>

### 西医学に依る治験例

医学博士 渡辺 正 月刊西医学 昭和 33 年 12 月

#### 一、消化性潰瘍の治癒

**第一例** 十九歳の高校生、二ヶ月前から糞便の色がコールタールの様に真黒で、空腹時になると胃部に疼痛を覚えた。非常に甘いお菓子が好きだった。某大学病院の内科でレントゲン検査その他精密検査を実施して、二ヶ年間内科的療法をつづけたが好転しなかった。大便の色は相変わらず真黒、空腹時の胃部疼痛はますます頑固になった。大学病院の医師達も遂にサジを投げて、外科的処置即ち手術をすすめた。八月の夏休みを利用して、大学病院の外科で手術することになったが、すすめる人があり、西医学に依る治療を希望して当院に入院した。

十日間入院して、その間に裸療法一日四回、温冷浴毎日一回、三号型に依る金魚運動、毛管運動、懸垂を午前、午後実施した。生キャベツ泥状汁を一日三回空腹時（午前九時、午後三時、午後八時）に飲用した。勿論、平牀、木枕で柿茶はチビチビー一日 20 位飲み、スイマグも利用した。食事は粥食で、軽い酸性食とした。生野菜五種類の泥状汁も食事毎に飲用した。間食は一切厳禁。

最初二日か三日は空腹で我慢出来ないと言ったが我慢させた。十日目には大便の色も真黒いのが青黒色になり、胃部の空腹時疼痛もなくなった。

入院十日で退院して、前述のような療法を家庭で実行した。本人の父母は熱心な西式会員であった。家庭で一ヶ月実行したところ、胃部疼痛は全くなくなった。早速、以前治療を受けていた大学病院内科（消化器の潰瘍、癌に関しては、日本でも屈指の評のある内科）で精診して貰ったところ、『完全に治癒している。どういう治療を行ったか？生キャベツ汁がそんなに効くとは不思議だ』と首をひねっていたという。

本人の父母も、西式会員ではあったが、これ程はつきりと潰瘍が治ったのには驚いて、『是非全快例として西医学誌上に発表してほしい。』と希望してきた。

因みに、大学病院に於ける病名は『十二指腸潰瘍兼大腸下垂症兼移動性盲腸』ということであった。本人は元気で通学しており、二ヶ年間離れることの出来なかったクスリも勿論全廃している。

**第二例** 三十四歳の会社員、十年来胃部に不快感をおぼえて気持ちの良いという日がなかった。都内及び近県の大学病院二ヶ所で精密検査を受けた。十二指腸潰瘍で、出来るだけ早期に手術した方がよいとすすめられた。

当方に来て、『西医学では手術しないでも、十二指腸潰瘍が治るか』と問う。『当方の指示通り実行すれば必ず治る。』と答えた。

十日間入院した。その間、第一例の患者と同様、食餌療法、裸療法、温冷浴、西式の六大法則等の実行。柿茶とスイマグの利用を行った。十日目には、自分でも驚く程気持良くなり、便通もすこぶる快調になり、大便の色もコールタール様の真黒から、生野菜食の色のような青黒い色に変わった。上腹部の不快感もなくなった。顔色が良くなり、皮膚の光沢が出てきた。これには患者さんの奥さんも驚く程だった。自宅に帰

えって一ヶ月半実行したところ、大便の潜血反応も陰性となり、レントゲン検査でも異常を認めぬようになった。大学病院でも不思議だと首をひねっていたという。四ヶ月後の現在、元気で働いている。

胃潰瘍や十二指腸潰瘍は現代医学に於いては原因不明で従って根本的対策というものがない。永い間内科的にいろいろのクスリを服用していても治癒するどころか、かえって悪化する。結局手術ということになる。手術しても根本的に治癒するものならよいが、癒着とか狭窄とかの副作用が残る。

西医学では食餌療法、六大法則、裸療法、温冷浴等の実行で簡単に治癒する。胃潰瘍は放っておくと癌に転化する恐れが大きいから、初期のうちに、西医学を実行して健康体に復元しておくことが大切です。

### 三、先天性心臓弁膜症の例

十七歳の高校生、先天性の心臓弁膜症で、顔色が青白く、むくみ勝ちである。これといった苦痛はないが、運動や労働で無理すると、同級生より疲れ易い。家庭は薬問屋でいろいろ服用したが、効果がない。次第に疲労し易く、且つ顔のむくみも強くなってきた。

心臓外科で有名な某大学で受診したところ、『腎臓等には障害がないから手術するのがよしい』『手術をしないと、先天性心臓弁膜症であるから、今後五年以上は生きられまい。』と言われた。ご両親は非常に驚いたが、予防的心臓手術のために死亡した小学生の例を知っているので、西医学では治療出来ないかと相談に見えた。『西医学の治療を行えば心配ない。所謂心臓病の治療こそ、西医学と現行治療医学とはいとも明瞭に異なる点で、西医学では血液循環の原動力が毛細血管にあり、心臓は血液循環を調節するタンク、又はサックであると考えているが、現行医学では、血液循環の原動力は心臓にありとして処置する。即ち、全然反対の立場で治療する。毛管運動に重点をおいた西医学の治療を行えば、五年内に死亡するなどということはないし、普通の人と変わらずに元気に生活し得る』と答えた。

入院加療十日で、顔のむくみもとれ、青白い顔色に赤みがさしてきた。階段の昇降にも疲労を感じないようになった。学校があるので十日で退院、以後自宅で西医学の治療を実行しつつ通学しているが、学校の成績もよくなりすこぶる元気である。

治療は朝食廃止の二食、西式六大法則の実行。特に毛管運動に重点、柿茶。生野菜泥状汁の活用。裸療法、温冷浴のみである。特別の薬とか注射等は一切使用しない。

この少年に限らず、先天性、後天性に問わず、多くの心臓弁膜症の患者で代償不全になって、全身の浮腫とか、呼吸困難、起坐呼吸等いろいろの症状を呈するようになった患者を入院治療させたが、食事量をへらして、柿茶をチビチビ飲み、毛管運動、裸療法に重点をおいて処置すると、驚く程早く、代償不全の症状がなくなり、元気を回復する。所謂強心剤を使用していた患者程症状が悪くなっている。強心剤はおそろしいと痛切にかんじる。

### あ と が き

キャベツ療法とは、葉の部分をこまかく刻んでスリバチで播りつぶします。約 30g を1回量として午前9時、午後3時と9時の空腹の時に食べます。30日間休まず続けると胃や腸の潰瘍が治ると言われています。等者の父親が永年十二指腸潰瘍で悩まされていたのですが、薄いスイマグ水の飲用だけで治り喜んでいました。山田整骨院で、毎日治療していいですかと質問を受けることがあります。渡辺医院では1日に午前と午後2回行っていましたので、毎日行っていいということです。